

JWF ファンド 2022 完了プロジェクト概要

Manbun村Musah地区における生活用水源地整備（カメルーン）

- (1) 実施団体: Cameroon Leaders Empowerment Initiative (#030)
- (2) 実施地: Musah Mambu villages, Mezam Division, Cameroon
- (3) 費用: 2,123ドル(拠出内訳) JWFファンド1,500ドル、実施団体360ドル、受益者138ドル、その他寄付者125ドル
- (4) 受益者数: 2,700人(男500、女1,000、子ども1,200)
- (5) 実施地の水問題:
 - ① 対象地区の生活用水源には、周囲を囲う堀や側溝がないため、地表水やゴミの混入等により、常に汚染状態にあり、住民は、こうした汚染水を使用することによる疫病に悩まされていた。
 - ② この水源以外には、4キロ先の別の水源まで徒歩で行くしかなく、生活にも多大な支障が生じていた。
 - ③ 水汲みには子供達も従事しており、学校の出席率の低下や学力低下も慢性化していた。



プロジェクト前の水源



プロジェクトで完成した給水施設

- (6) プロジェクトの主な活動:
 - 関係者との協議、給水施設への堀・溝・水栓の設置、水管理委員会の設置、清掃・メンテナンスの実施等、安全な飲み水や衛生習慣に関するトレーニング
- (7) 持続可能な活動: 資源やコミュニティの動員、計画立案、リーダーシップに関する研修が行われた結果、チームは構造物を維持するための活動を組織し、計画し、実施することができるようになり、プロジェクトの責任、主体性、管理権を持ち、持続可能性を確保するための行動をとることができるようになる。

JWF ファンド 2022 完了プロジェクト結果

Manbun村Musah地区における生活用水源地整備（カメルーン）

【現状】

- 現状では、水源地は、完成以来、良好な状態にあり、今日まで貯水槽の3つの水栓はオーバーフロー管とともに安定して作動し、満水を超えると排水している。給水施設は、木製のフェンスで保護され、破損や子供たちの直接アクセスを防いでいる。
- プロジェクト実施中に設置された水管理委員会とユースリーダーが、水構造物の管理を組織・調整する中心的なメンバーである。毎月末には、清掃キャンペーンを実施している。これは、地域のすべての若者が参加する清掃活動である。
- この給水施設の持続可能性に関する良い点のひとつは、配管工事と水栓の取り付けを担当した配管工が、水源と集水域の所有者であり、水管理委員会のメンバーでもあるということである。子どもが、水栓2個を壊した経緯があるが、予測していたこともあり迅速な修理対応ができた。
- 給水施設を運営・維持するための財政的・人的資源については、これまでのところ、給水施設の損傷は軽微（水栓の交換2回）であるが、構造物に不具合が生じた場合には、コミュニティが委員会に対し拠出金を支払うことが決定された。現在、コミュニティは、構造物の維持管理に関して、どのような寄付の呼びかけにも応じる用意がある。交換された2つの水栓は、水管理委員会によって調整されたコミュニティからの寄付で賄われた。

【変化】

- プロジェクトによってもたらされた変化として、毎月の清掃キャンペーン活動の組織化があげられる。プロジェクト以前は、コミュニティが毎月清掃活動を組織することはなかった。コミュニティの清掃キャンペーンは、幸福度の向上と清潔で健康的な給水施設の確保をもたらした。
- 更に水に関連する病気の発生率が減少した。以前は水源が汚染されており、特に雨季には腸チフスなどの病気が多発し、親たちは薬代に頭を悩ませていた。新しい給水施設は、水関連の病気の発生率を劇的に減少させ、子供たちの学校生活も改善した。

【その他】

- ユース・リーダーが、率先してコミュニティでのユース活動をコーディネートしている。
- 水に関する病気の数が激減した。



改良された給水施設を利用する子どもたち



給水施設の清掃活動に従事する受益者

JWF ファンド 2022 完了プロジェクト結果

[Manbun村Musah地区における生活用水源地整備\(カメルーン\)](#)

現場からの声 (抜粋)



Ntanifum Peterさん、(55歳、プロジェクト対象地域の町長)

水源保護に向けた地域社会の意識向上と資源動員を通じた絶え間ない清掃活動により、地域住民の衛生行動は好転しました。ほとんどの子供たちは、腸チフスのような病気を頻繁に患うことはなくなり、学業成績に影響を与えることもなくなりました。給水施設の完成と同時に、その地域は保護され、水に関連した病気は大幅に減少しました。



Ndifor Johnさん、Nfornah Peterさん、(各々、65歳、56歳、施設管理委員会委員長)

委員会の構成としては、ひとりのリーダーが技術チームをコントロールし、もうひとりが運営委員会全体をコントロールするという役割分担をしています。また、委員会のメンバーは、資源、寄付がどのように集められ、どのように使われるかについて、透明性のある説明責任を果たす方針を確立しました。委員会には登録用の記録簿があり、資源の収集と使用に関する詳細が記載されています。この委員会は、四半期ごとにコミュニティーのメンバーから事務や財政状況について監査を受けています。一方、後継者計画もあり、ユース・リーダーが委員会に加わり、ユースと委員会の仲介役として学んでいるところです。



Asoh Pamelaさん、(46歳、受益者)

私は、WASHトレーニングを通じて、定期的な掃除、手洗い、女性社会グループにおける環境保護、農業、水源周辺の建設の重要性に関する意識向上を学びました。また、このプロジェクトのおかげで、私の子どもたちは早く学校に行き、家庭内の病気も減ったと感謝しています。以前は、私の子どもたちは水源で時間を無駄にしていたのですが、完成した給水施設には3つの蛇口があり、3人が同時に水を汲むことができるため、ありがたいことにこの新しい給水施設により子どもたちの水汲みがより早く簡単になりました。